

作成日: 2007年01月10日

改訂日: 2017年09月01日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: マッシュューズ VALUE BLACK黒インク

製品番号(SDS NO): LVALUEBK-5

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途: 産業用インクジェットプリンター用インク

供給者情報詳細

供給者: アルマーク株式会社(旧:株式会社ユニオンコーポレーション)

住所: 大阪府吹田市江の木町19-19

担当部署: マーケティング本部

電話番号: 06-6369-2711

FAX: 06-6369-1298

製造元: (コスタリカ) Matthews International Corporation Costa Rica SRL

住所: Zona Franca La Lima, Multitenant #8 Guadalupe, Cartago, Costa Rica

電話: (506)-4000-1458

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(吸入): 区分 3

皮膚腐食性及び刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 2

呼吸器感作性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 2

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2

環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 3

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

吸入すると有毒(気体、蒸気、粉じん及びミスト)

皮膚刺激

強い眼刺激

吸入するとアレルギー、ぜん息または、呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

臓器の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

水生生物に有害

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
 呼吸用保護具を着用すること。
 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
 保護手袋を着用すること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 保護眼鏡/保護面を着用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

特別な処置が必要である。
 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
 医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。
 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合:多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :
 混合物

成分名	含有量(%)	CAS No.	化管法政令番号
グルタルアルデヒド	<1.0	111-30-8	-
水	85 - 95	7732-18-5	-

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

グルタルアルデヒド

GHS分類区分該当有害成分

どくろシンボル該当成分

グルタルアルデヒド

健康有害性シンボル該当成分

グルタルアルデヒド

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

- 医師に連絡すること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
- 吸入した場合
 - 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - 呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。
- 皮膚(又は髪)に付着した場合
 - 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
 - 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。
 - 直ちに医師に連絡する。
 - 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。
- 眼に入った場合
 - 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合
 - 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 - 意識のない被災者には何も飲物を与えてはならない。
 - 直ちに医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

- 霧状水、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。
- この製品自体は燃焼しない。

特有の危険有害性

- 燃焼の際に有毒な炭素酸化物を生成する。

消火を行う者への勧告

消火を行う者の保護

- 消火作業者は適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 回収が終わるまで十分な換気を行う。
- 適切な保護具を着用する。

環境に対する注意事項

- 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

二次災害の防止策

- 関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 着火源を取除くとともに換気を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

注意事項

- 皮膚に触れないようにする。
- 眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 保護手袋を着用すること。
- 保護眼鏡/保護面を着用すること。

配合禁忌等、安全な保管条件**適切な保管条件**

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 施設して保管すること。
- 乾燥した場所に保管すること。
- 凍結させないこと

容器包装材料

- 他の容器に移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置**管理指標**

管理濃度データなし

許容濃度

(グルタルアルデヒド)

日本産衛学会(2006) (最大値) 0.03ppm

(グルタルアルデヒド)

ACGIH(1998) STEL: 上限値 0.05ppm (上気道, 皮膚および眼刺激; 中枢神経系損傷)

注釈(症状、摂取経路など)

(グルタルアルデヒド)

皮膚感受性; 呼吸器感受性

NIOSH-REL

(グルタルアルデヒド)

C 0.2ppm, 0.8mg/m³**ばく露防止****設備対策**

- 適切な換気のある場所で取扱う。

保護具**呼吸用保護具**

- 呼吸用保護具を着用すること。
- 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

- 保護手袋を着用する。推奨材質:ネオプレン

眼の保護具

- 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- 保護衣を着用する。

衛生対策

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質**基本的な物理的及び化学的性質に関する情報****物理的状态**

- 形状 : 水溶性液体
- 色 : 黒色

臭い： 溶剤臭
pH： 6.0 - 8.5
物理的状态が变化する特定の温度/温度範囲
初留点/沸点： 100°C
引火点： 適用外
自然発火温度： 知見なし
爆発特性： 知見なし
蒸気圧： 23.4hPa
蒸気密度： > 1.0
比重/密度： 1.006
溶解度
水に対する溶解度： 混和する

10. 安定性及び反応性

化学的安定性
常温常圧で安定
避けるべき条件
衝撃、摩擦、火気またはその他の着火源
凍結させないこと
混触危険物質
強塩基
危険有害な分解生成物
炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報
急性毒性
急性毒性(経口)
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド)
rat LD50=66 - 183 mg/kg (NICNAS, 1994)
急性毒性(経皮)
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド)
rabbit LD50=1360 mg/kg (NICNAS 1994)
急性毒性(吸入)
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド)
vapor : rat LC50=23.5 ppm (NICNAS, 1994)
局所効果
皮膚腐食性・刺激性
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド)
ラビット 腐食性 (DFGOT vol.8, 1997)
眼に対する重篤な損傷・刺激性
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド)
ラビット 重度で持続的な刺激 (NICNAS, 1994)
感作性
呼吸器感作性
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド) cat.1; ACGIH, 2001

皮膚感作性
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド) cat.1; DFGOT vol.8, 1997
生殖細胞変異原性データなし
発がん性
(グルタルアルデヒド)
ACGIH-A4(1998): ヒト発がん性因子として分類できない
催奇形性データなし
生殖毒性データなし
短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響
特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
[区分1]
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド) 中枢神経 (GESTIS, 2009)
[区分3(気道刺激性)]
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド) 気道刺激性 (ACGIH, 2001)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
[区分1]
[日本公表根拠データ]
(グルタルアルデヒド) 気道 (ACGIH, 2001)
吸引性呼吸器有害性データなし
その他情報
この調合製品自体のデータは得られていない。

12. 環境影響情報

生態毒性
水生毒性
水生生物に有害
水溶解度
(グルタルアルデヒド)
混和する (ICSC, 2000)
残留性・分解性
(グルタルアルデヒド)
TOCによる分解度: 86% (既存化学物質安全性点検データ)
生体蓄積性
(グルタルアルデヒド)
log Pow=-0.18 (PHYSPROP Database, 2005)
その他情報
この調合製品自体のデータは得られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法
環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
この物質は有害廃棄物として処理する。
汚染容器及び包装
容器は有害廃棄物として処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類
容器等級：Ⅲ
国連番号に該当しない

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

グルタルアルデヒド

名称通知危険/有害物

グルタルアルデヒド

生殖細胞変異原性

[厚労省局長通達]

(グルタルアルデヒド)

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

グルタルアルデヒド

消防法に該当しない。

化審法に該当しない。

大気汚染防止法

有害大気汚染物質(中環審第9次答申)

グルタルアルデヒド

適用法規情報

この物質に関する貴国又は地方の規制については、貴社の責任でご調査願います。

記載した法規情報は意図的成分に関するものです。非意図的成分、サプライヤから開示を受けていない不純物に関する情報は含まれていません。

16. その他の情報

参考文献

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2016 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

責任の限定について

この製品安全データシートは、製造者からの情報を元に編集したものであり、この製品の安全な使用と取り扱いのために必要な注意事項をはじめ、危険性に関する情報を記載し、関係者に周知するためのものである。本データシートは、この製品が目的とする使用における健康、安全および環境問題に関する手引きであり、使用に際しての技術的性能を保証するものではない。また、このデータシートに記載された情報は、現在知りえた情報であり、その正確性、信頼性または完全性を保証するものではない。この使用および廃棄に際しては、適用を受ける法規を確認し遵守することが必要である。また、各注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点に配慮が必要である。この製品を他の目的に使用してはならない。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 平成27年度)です。但し、当社の判断に基づいて、データ一部変更しております。